愛知県愛知郡 長久手村全図

平成20年度 長久手町郷土資料室特別展

長久手の地名展

―長湫編―

明治九年　地租改正字限図　愛知郡長久手村（宮脇）

長久手町教育委員会

愛知郡長久手村全図（部分）昭和38年長久手村作成

ごあいさつ

長久手町郷土資料室特別展「長久手の地名展 ―長湫編―」を開催するにあたり、ここに謹んでごあいさつ申し上げます。

豊かな自然と都市的な生活環境が同居する本町では、都市基盤整備が進む中で、字名字界の変更により、古くからなじんできた地名のいくつかが消え、またその区域についても都市化へ対応すべく、広く見直しがされてきました。

この度の展示は、平成15年度の「長久手の地名展 ―上郷編―」に続く企画として、長湫地区の地名についてとりあげました。長湫地区は、天正12年(1854)の「小牧・長久手の戦い」のゆかりの地として、合戦にまつわる史跡が多数存在する地域です。

本展では、長久手合戦に関するもの、むかしの暮らしぶりにかかわるものなど、地名の変遷とそれらからうかがい知ることのできる長湫の歴史についてご紹介します。また、江戸時代の租税資料や明治時代の地籍図などから地名について解説し、今回初公開となる「愛知郡長久手村　土地整理図」など、興味深い資料を展示します。

我が地域固有の名前「地名」をとおし、皆様にとって郷土への理解と愛着心を深めていただく機会となれば幸いに存じます。

平成20年11月

長久手町教育委員会　教育長　青山 安宏

明治九年　地租改正字限図　愛知郡長久手村(宮脇)

目　次

ごあいさつ

長湫(ながくて)地区 …… 4

「長湫」の由来 …… 5

字名(あざな)の歴史～江戸時代の長湫 …… 7

字名の歴史～明治時代の長湫 …… 10

字名の歴史～長久手古戦場 …… 14

字名の歴史～現在の長湫 …… 18

あとがき

長湫地区

長久手町航空写真　平成17年7月長久手町撮影　に一部加工

――	大字界
――	市町界

長久手町は、明治39年(1906)に上郷村・岩作村・長湫村の三か村が合併し、現在の形になりました。

長久手町の変遷

この「長久手（長湫）村」が、現在の「長湫地区」、旧大字長湫の地域です。明治22年(1889)に合併される前の旧村の区域を「大字」とし、それぞれの大字にあった字名（地名）を「小字」としました。昭和40年代に始まった土地区画整理事業が終了したところは、新たな字の区域と字名となり、「大字長湫」がつかない地名（新町名とも呼ばれています）もあります。

「長湫」の由来

長久手町の「長久手」の「久手」は、「長湫」の「湫」を万葉がなで読み表したものです。「湫」とは、湿地を表します。つまりナガクテは、「長く続く湿地」を意味することばなのです。

かつて、景行天皇社と常照寺の間は鴨田川に沿って低地が続いていました。このあたりのようすを指して、「長湫」という地名が生まれたのでしょう。江戸時代の文献『尾張志』にも「長湫とも書て湫は其地卑く湿へるをいふとそ」と書かれています。また、昔の字名にも湿地を示すものがいくつもあります。

市ヶ洞の湿田（昭和50年代ごろ）

もともと水が湧いているところを、水田にしたところもありました。「湿田」といいます。そのような場所では、植えるための苗や刈り取った稲を運ぶため、田舟が使われました。近年まで市ヶ洞周辺などに、このような湿田が残っていました。

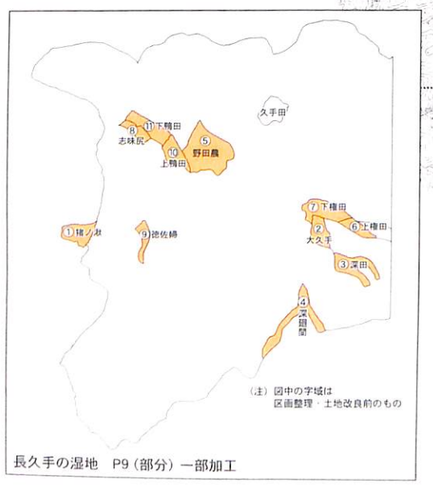
『長久手の湿地』表紙より
田舟で稲を刈るようす

長湫地区内の湿地を示す地名

ミミカキグサ

モウセンゴケ

長久手村全図（部分）
昭和38年長久手村作成



長久手の湿地　P9（部分）一部加工

＜湿地を示すことばから＞

クテ	①猪ノ湫 ②大久手
フケ（深）	③深田 ④深廻間
ヌタ（ノタ）	⑤野田農
ゴン（権）	⑥上権田 ⑦下権田
清水	⑧志味尻（「清水の末」の意味）

＜湿地を好む植物にちなんだもの＞

トクサ	⑨徳佐婦「トクサが生える」
ガマ	⑩上鴨田 ⑪下鴨田「カモ＝ガマの転化」

（注）ゴシック体は旧字名

字名（あざな）の歴史～江戸時代の長湫（ながくて）

「長久手（＝「長湫」の「湫」を万葉がなで表した書き方）」の文献への登場は、中世になってからのようです。そのころは武士が中心の社会となり、「村」という制度が取り入れられるようになっていました。

江戸時代には、租税の状況や地域のようすがわかる様々な資料が作られました。それらの文献や絵図などから当時の村の姿を確認できます。

『寛文村々覚書』寛文年間（1661－1673）

江戸時代初期に作られた『寛文村々覚書』には、山や池などの名前を見ることができます。現在字名となっている地名もあります。

寛文村々覚書　（上）
愛知郡
元高八百拾四百三十七升九合　外　四合　備前帳ニ不足。
一概高千百弐拾八石九斗六升　山田之庄　長久手村
田畑七拾町九反八畝七歩
内　田方六拾三町五反拾五歩　雨池掛り
畑方七町四反七畝廿弐歩
一畑方壱反八歩　同前見取場
一家　数　三拾壱軒
一人　数　四百拾五人　内　男百八拾五人　女弐百三拾人
馬　弐拾五疋
（中略）
一松山九拾三町歩　下苅年貢米、山方へ納。
高山　草かけど山　草山　生山　深廻間山
内　卯塚山　横道山　大廻間山　鷹泊山　根行山
入ヶ池山　福井山　権田山　仏ヶ根山
右福井山之内、仏ヶ根山ニ長久手合戦之刻、権現様御馬立場在。
池田（勝）入・同庄九郎・森庄蔵、塚有。
一古城跡　先年、加藤太郎右衛門居城之由、今八百姓屋敷ニ成ル。
一雨池拾六ヶ所　公儀より修覆。
杁が池　雁股池　池田池　きぶらけ池　前山池
内　仏池　菅池　権田池　長池　のたの池　弥四郎池
わら平池　作田池　打城池　わき池　うつが池
（後略）
朱線は明治時代に字名となった地名（傍線引用者）
長久手町史資料編七「近世」より
（底本：名古屋叢書　続編1『寛文村々覚書』）

『愛知郡長久手村中田畑寄（あいちぐんながくてむらちゅうでんばたよせ）セ帳（ちょう）』寛文４年（1664）〔長湫地区所蔵〕

江戸時代前期の長久手村の名寄帳で、農民がどのように田畑を所持していたか書かれています。

人物ごとに耕地の場所（＝地名）と一筆ずつの田畑の状況が載っています。

打（うち）こし

下畑（げばた）弐拾歩（にじゅっぽ）　高六升壱合五勺（たかろくしょういちごうごしゃく）　彦兵衛（ひこべえ）

（意味）

打越に下畑（＝収穫量の低い畑）が二十歩（＝二十坪）あり、その収穫高が六升一合五勺で、所有者は百姓彦兵衛である。

翻刻：長久手町史資料編七「近世」より

愛知郡長久手村中田畑寄セ帳
〔長湫地区所蔵〕

『愛知郡長久手村絵図』年不詳（江戸時代）解説図　〔林邦夫氏所蔵〕

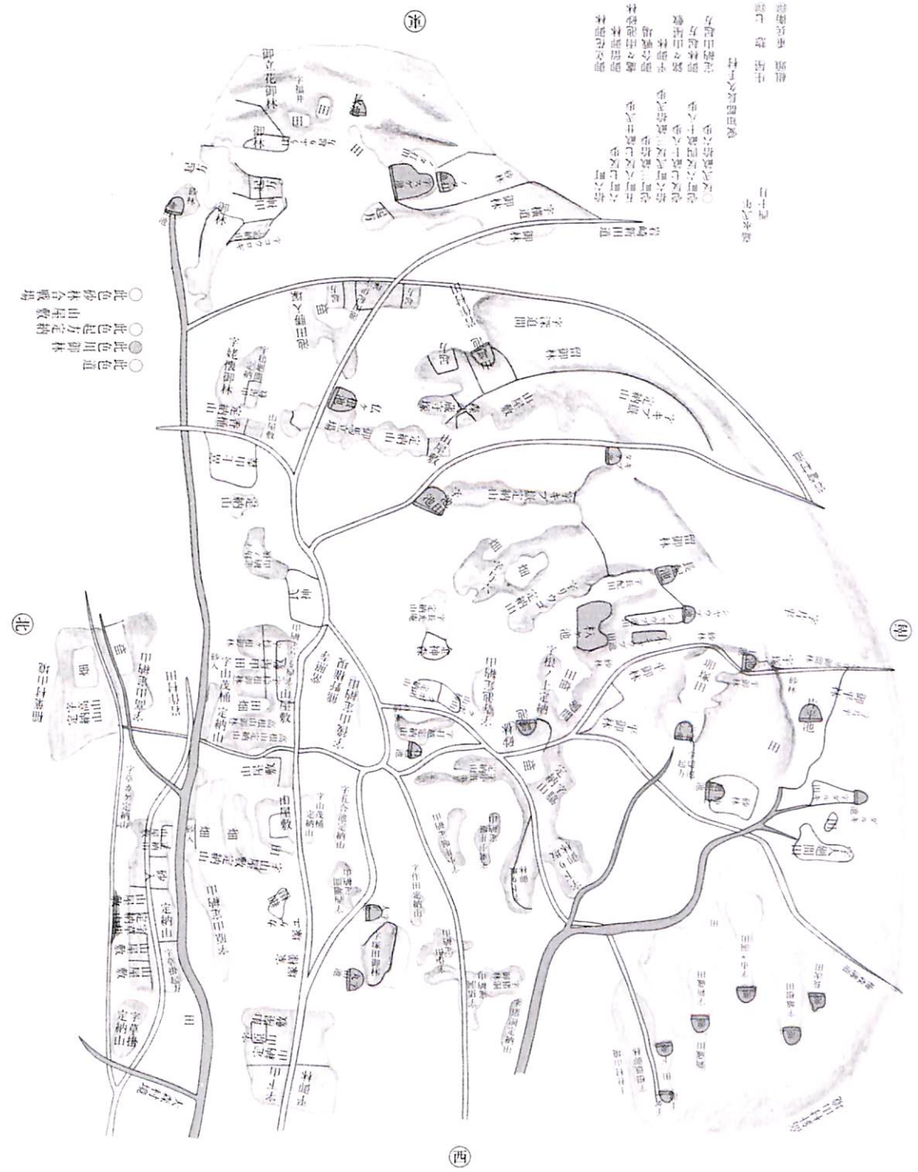
長久手町史資料編―「近世村絵図・地図集」村絵図の村・いまむかし　より解説図

この村絵図は、庄屋林家に伝えられたものです。原図には描かれた年が記入されていませんが、江戸時代中期以後のものと推定されます。

図中には、村内（現在の長湫地区の部分）の山、溜め池、河川、社寺、人家などが描かれ、当時の村内の状況がよくわかります。

草カケ（草掛）、池田、先立（先達）、戸田カイ（戸田谷）、クボ山（久保山）、根ノ神（根の神）、カタヒラ（片平）など、今日にも伝わる地名が記載されていて興味深い図です。

『愛知郡長久手村絵図』嘉永２年（1849）解説図　〔原本：徳川林政史研究所所蔵〕



長久手町史資料編―「近世村絵図・地図集」村絵図の村・いまむかし　より解説図

この村絵図は幕末に描かれたものです。

図には、御林（＝藩有林）、定納山（＝農民が年貢を払って利用する山林。一定の税を納めれば下草などを刈るために入ることのできた山）、砂林（＝水源を守るための山林）、起方（＝開墾地）、山屋敷（＝新しい入植地。山林を開発してできた集落）などが示されています。

下山、塚田、作田、長配、キブ嶽（喜婦嶽）などの地名を見ることができます。

字名の歴史～明治時代の長湫

明治５年(1872)『皇国地誌』編集の太政官布告によって全国で地誌の資料編集が始まりました。明治26年(1893)に事業停止となり、刊行されずに終りましたが、それまでに集められた草稿の一部が残っていて『愛知郡村誌』として発行され、内容が知られるようになりました。地名については、香流川や杁ヶ池をはじめ、川や池、森などの名が書かれています。この本は、後の『愛知郡誌』や『長久手村誌』の編集に大きな影響を与えました。

また、明治６年(1873)、政府から地租改正条例が発せられ、徴税のための土地台帳作成に向けて、字域と地番の確定作業が行われました。この条例により土地一筆ごとに地価を決め、地券が発行されました。ちなみに、当時の土地にかかる税金は地価の３パーセントで、金納でした。

このとき、それまで使われていた多くの小さな地名を取捨選択し、または新しく、字名がつけられました。こうして、明治９年(1876)に『地租改正字限図』が作成されました。

『地租改正字限図　愛知郡長久手村』明治９年(1876)

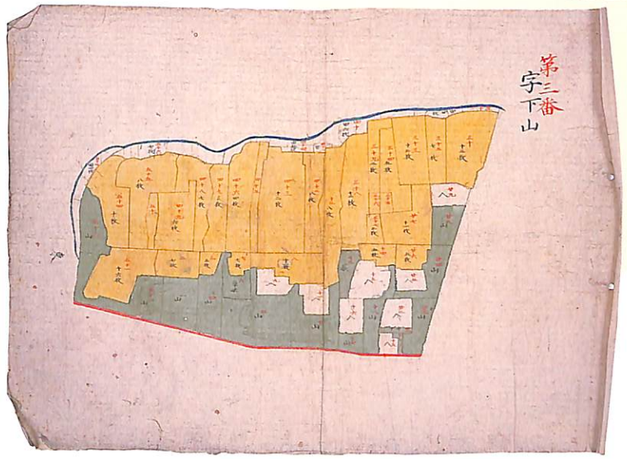
一番「櫨木」から九十番「棒振」まで、一字ずつ、厚手の和紙に描かれています。

この絵図から、田・畑・宅地など土地の種類、面積がわかります。土地の形状や面積は正確とはいい切れませんが、川や水路、道、荒地や砂地、寺社なども色分けされて描かれており、当時の字域のようすが克明にうかがえます。

明治九年　地租改正字限図　愛知郡長久手村(宮脇)

凡　例	
田	
宅　地	＜
畑	
山　林	
寺　社	
池・水路	
道	

明治九年　地租改正字限図　愛知郡長久手村(菅池)



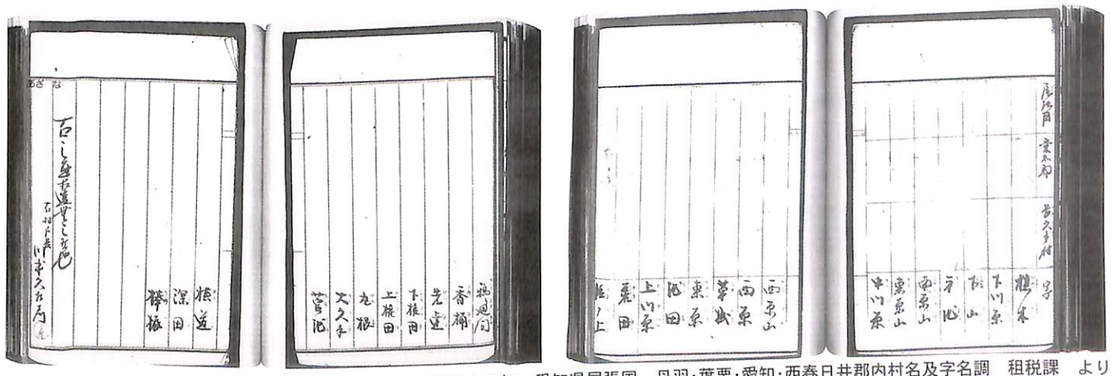
明治九年　地租改正字限図　愛知郡長久手村(下山)

『愛知県尾張国　丹羽・葉栗・愛知・西春日井郡内　村名及字名調　租税課』

明治15年(1882)　〔複製：愛知県公文書館所蔵、原本：徳川林政史研究所所蔵〕

明治15年(1882)地誌編さんのため、政府が行った全国の字名調査の草稿です。各町村から提出されました。

明治時代以来、新町名に変わるまで、ほとんど同じ字名が使われていたことがわかります。

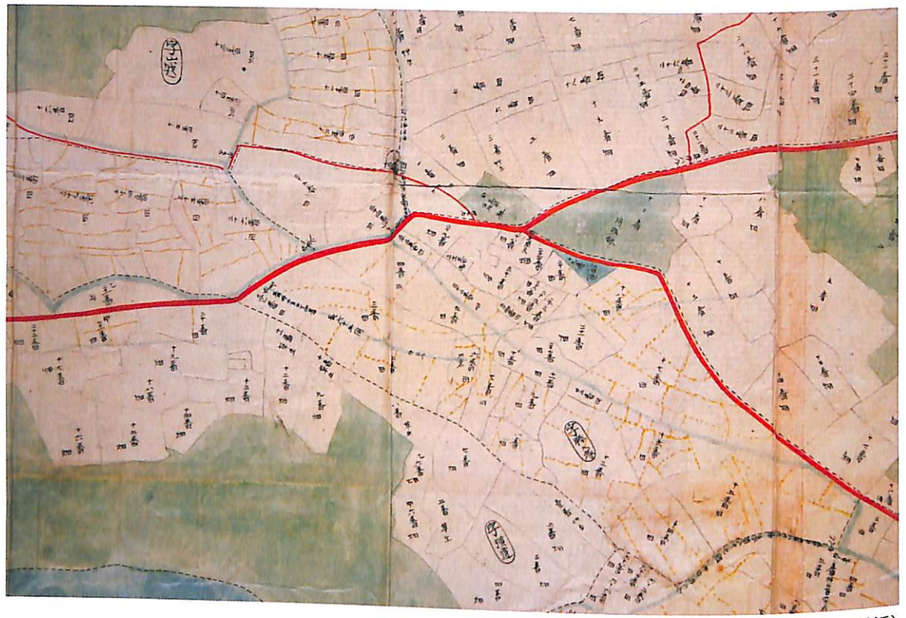


明治十五年　愛知県尾張国　丹羽・葉栗・愛知・西春日井郡内村名及字名調　租税課　より

『地籍字分全図　愛知郡長久手村』明治17年（1884）〔愛知県公文書館所蔵〕

明治17年(1884)に作成された、尾張国愛知郡長久手村（当時）の村全体を１枚におさめた地籍図の一部です。実物の全体は３メートル四方ある大きなものになります。

道路や水路、山林、溜め池などは色分けされ、宅地、水田、畑などは地番ごとに区分けされています。長湫地区が近代化によって変化する前の状況を知ることができる貴重な資料です。



地籍字分全図　愛知郡長久手村（山越～勝入塚　付近）

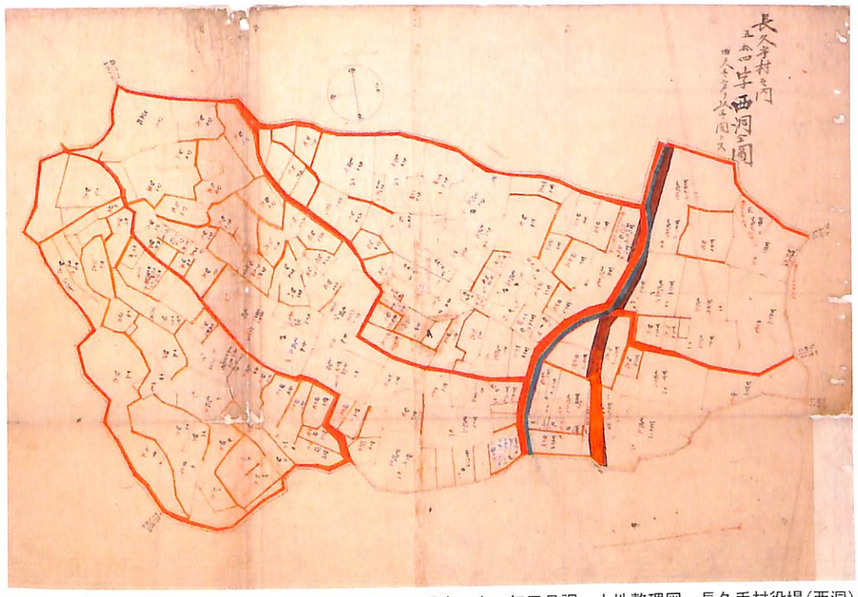
地籍字分全図　愛知郡長久手村（久保山～打越　付近）

『一村字分図　尾張國愛知郡長久手村』明治18年（1885）１月

『土地整理図　長久手村役場』明治21年（1888）５月調

明治９年(1876)の図に比べ、形状や大きさが正確に記されています。これらの図は実測図で、字界が黒、水路が青、道路が赤で示されています。官令により官有地、民有地の地図の製作を行ったときのものかと考えられます。なお、この図はこれまで長久手町役場で保管されてきたもので、今回が初めての一般公開となります。

明治十八年一月　一村字分図　尾張國愛知郡長久手村（武蔵塚）



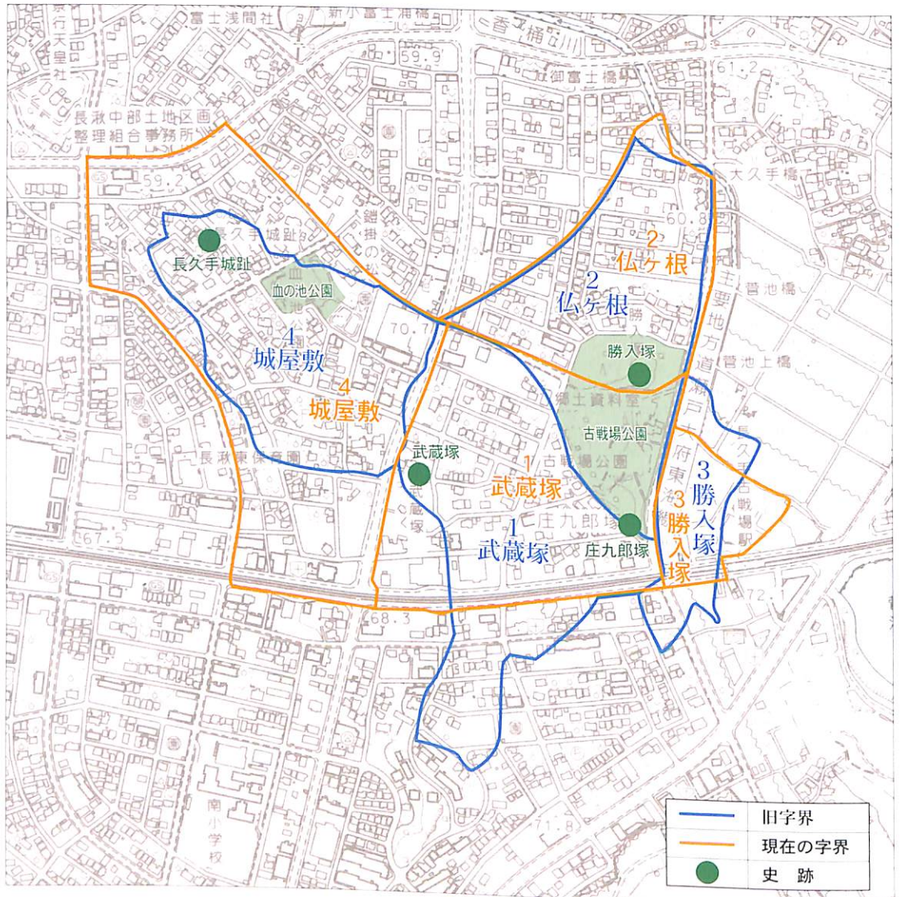
明治二十一年五月調　土地整理図　長久手村役場（西洞）

字名の歴史～長久手古戦場

私たちのまち・長久手町は、小牧・長久手の戦いの主戦場となったところです。天正12年(1584)4月9日、秀吉と家康が唯一直接対決を果たした「長久手合戦」は歴史に名高く、「長久手」の名が、のちに全国に知られるようになりました。

実際に戦場となったのは、主に現在の尾張旭市から日進市へ抜けていく長湫の東部中部、岩作の西部あたりと思われます。広い範囲の中で、武将が討ち取られた場所に塚ができたり、大将が陣を構えたと伝えられるなどして、ことさらにいわれのある場所ができ、史跡となっています。

ここでは、史跡と関係の深い字名（新町名も含む）についてご紹介します。



長久手町全図(部分)　平成18年長久手町作成　に一部加工

昭和14年(1939)　国史跡に指定　長久手古戦場　(勝入塚、庄九郎塚付近、武蔵塚)
附　御旗山
首　塚（大字岩作地内）
色金山（大字岩作地内）

昭和58年(1983)　町史跡に指定　長久手城趾、堀久太郎秀政本陣地跡、木下勘解由塚

1 武蔵塚

秀吉方の武将、森長可(1558-1584)が長久手合戦で戦死した場所に残る塚にちなみ、字名がつけられました。「武蔵塚」とは、長可の官命「武蔵守」にちなんで呼ばれたものです。

昭和47年(1972)にグリーンロードが開通する前までは、このあたりは畑と松林が交錯する丘陵地でした。とくにグリーンロードの南側は、やや高い丘で、長可はこの高地に陣取って、北方の家康軍に向かって突進したと考えられます。

現在はグリーンロード沿いに店舗がにぎやかに立ち並び、そのほかは閑静な住宅街と史跡地となっています。

平成5年(1993)の町名変更で、字域が現在の形になりました。

森長可画像(模写)部分　〔原本：可成寺所蔵〕

森長可は勇猛果敢な武将として知られました。本能寺の変で織田信長と命運をともにした森蘭丸の長兄です。塚は、江戸時代に、武士たちが合戦史跡を訪れるようになって、明和8年（1771）に「明和の碑」が立てられました。また、長可の子孫が明治31年（1898）に立てた「明治の碑」もあります。

2 大字長湫字 仏ヶ根

長久手合戦の一大戦場となった地。

「仏ヶ根」の地名は古くからあり、江戸時代初期の『寛文村々覚書』にも書かれています。合戦当時からあったのかは定かではありませんが、多数の戦死者の塚があったようで、それが地名の起源となったともいわれています。もう一説には、山林が切り開かれて耕地化された丘陵を意味する「ハタケガネ」が「ホトケガネ」に変化したものといわれます。

かつての字域はもっと南側まで延びていて、史跡「庄九郎塚」が南の端に位置しましたが、平成5年(1993)の町名変更時に現在の字の形となりました。

仏ヶ根(昭和50年代ごろ)

秀吉方の武将、池田恒興（1536-1584）が戦死した場所に「勝入塚」が残ります。塚には明和の碑と、明治24年（1891）に恒興の子孫が建立した「明治の碑」があります。恒興の息子、池田元助（幼名 庄九郎）の戦死の場と伝えられる「庄九郎塚」も付近にあります。

3 大字長湫字 勝入塚

池田恒興が長久手合戦で戦死した場所に残る塚にちなみ、字名がつけられました。「勝入」とは、恒興の出家後の名です。

このあたりは香流川の支流である香桶川の源流で、豊富な湧き水に恵まれた地でした。岩作村の人たちがこの南側の方に溜め池を作り水田を開いたので、江戸時代には岩作村の飛び地となっていました。

明治時代になって地租改正のため、字域を確定することになったとき、現在の長湫地区へ編入され、この字名となりました。

愛知郡長久手村絵図(部分)
〔林邦夫氏所蔵〕

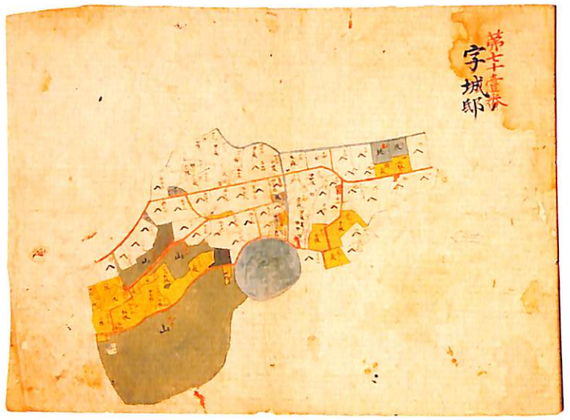
4 城屋敷

長久手合戦で家康方の武将、丹羽氏についていた加藤太郎右衛門忠景一族の住む城館があったことからこの地名となりました。

城跡は江戸時代にすでにかなり崩れてしまっていたようです。

区画整理でこのあたりの地形は大きく変わり、平成５年(1993)の町名変更のときに字域が現在の形となりました。

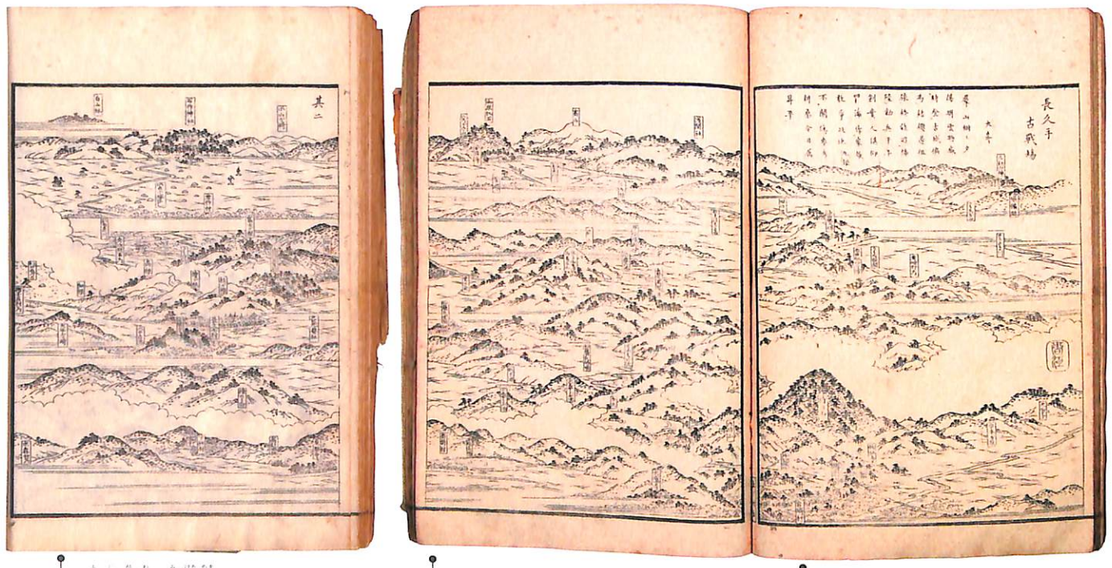
忠景は、義弟の岩崎城（現在の日進市）の城主丹羽氏次の留守居役として、秀吉方の池田恒興勢と戦いましたが、岩崎城は落城し、忠景も戦死しました。城館は、堀を挟んで東と西に郭が並立する構造であったことがわかっています。



明治九年　地租改正字限図　愛知郡長久手村（城屋敷）

『尾張名所図会』巻ノ五　小田切春江/画　天保12年（1841）

この本では、見開き３ページにわたり、長久手古戦場を南北に眺める図が描かれています。
長久手古戦場として指定されている史跡の数々が書き込まれています。



富士ヶ根（御旗山）

（画面上部：大字岩作地内）
いろがね山（色金山）
御床机石
安昌寺
首塚

森武蔵塚
仏ヶ根の池
加藤氏宅趾（長久手城趾）

池田紀伊守塚（庄九郎塚）
池田勝入塚

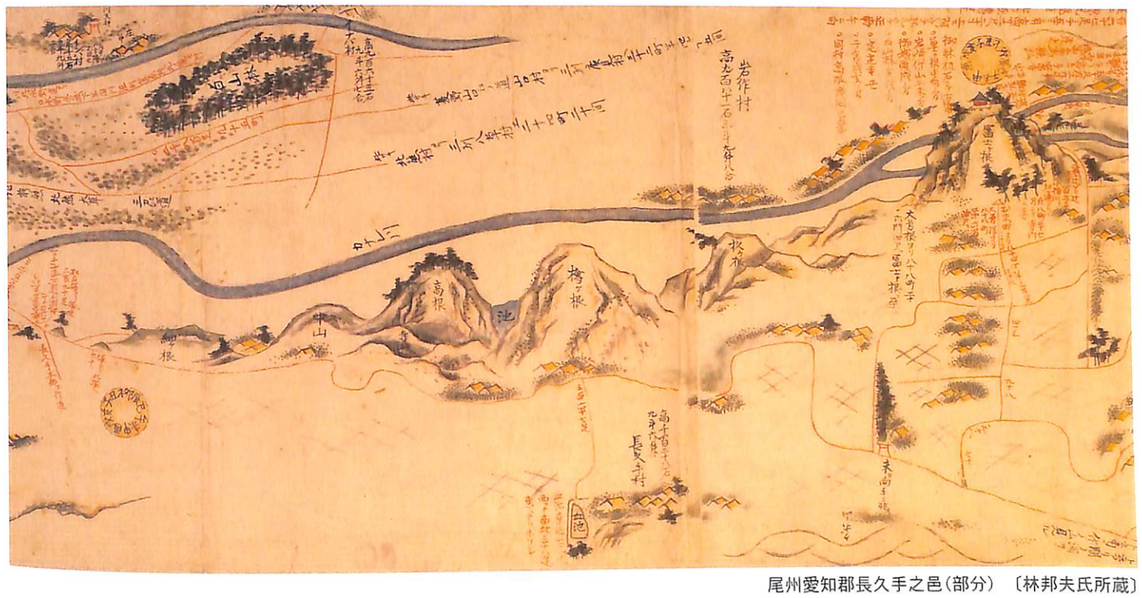
桧ヶ根

長久手合戦のとき、秀吉方の武将堀久太郎秀政（1553-1590）は、桧ヶ根に陣をかまえ、白山林（現在の尾張旭市）からやってくる徳川勢を待ち受けました。

このあたりは細ヶ根、高ヶ根、桧ヶ根、杉ヶ根と、細く険しい尾根の続いた場所（「根」は峰の意味）で、地形をうまく利用した秀政は、秀吉方唯一の勝ち戦といわれる勝利をおさめました。

現在は区画整理が進んで、住宅地が広がっています。丘の上の中央図書館の北側にある公園は、桧ヶ根公園と名づけられており、香流川の流れとともに、今もなお在りし日の名を伝えています。

区画整理前の桧ヶ根（昭和50年ごろ）〔小林元氏撮影〕

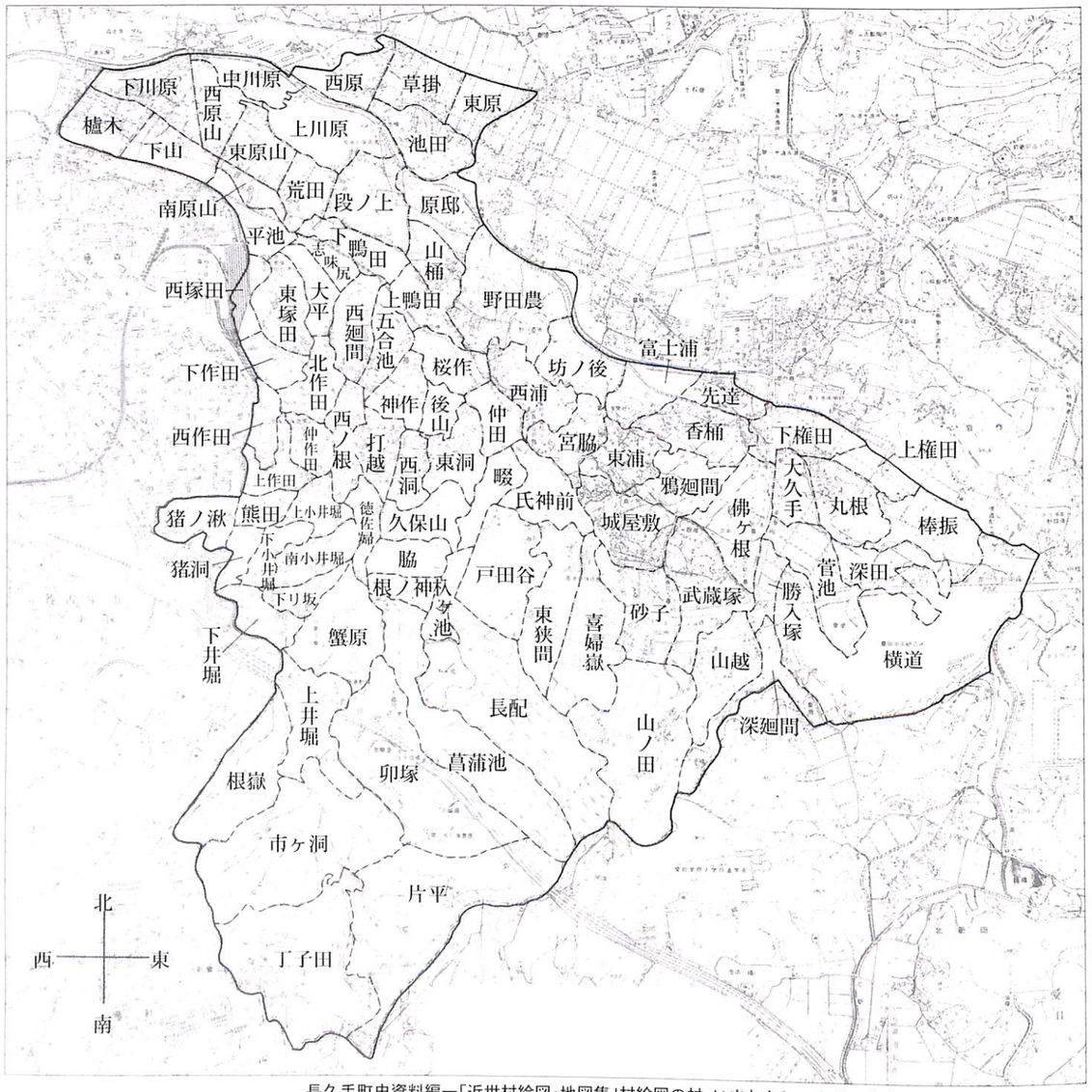


尾州愛知郡長久手之邑（部分）〔林邦夫氏所蔵〕

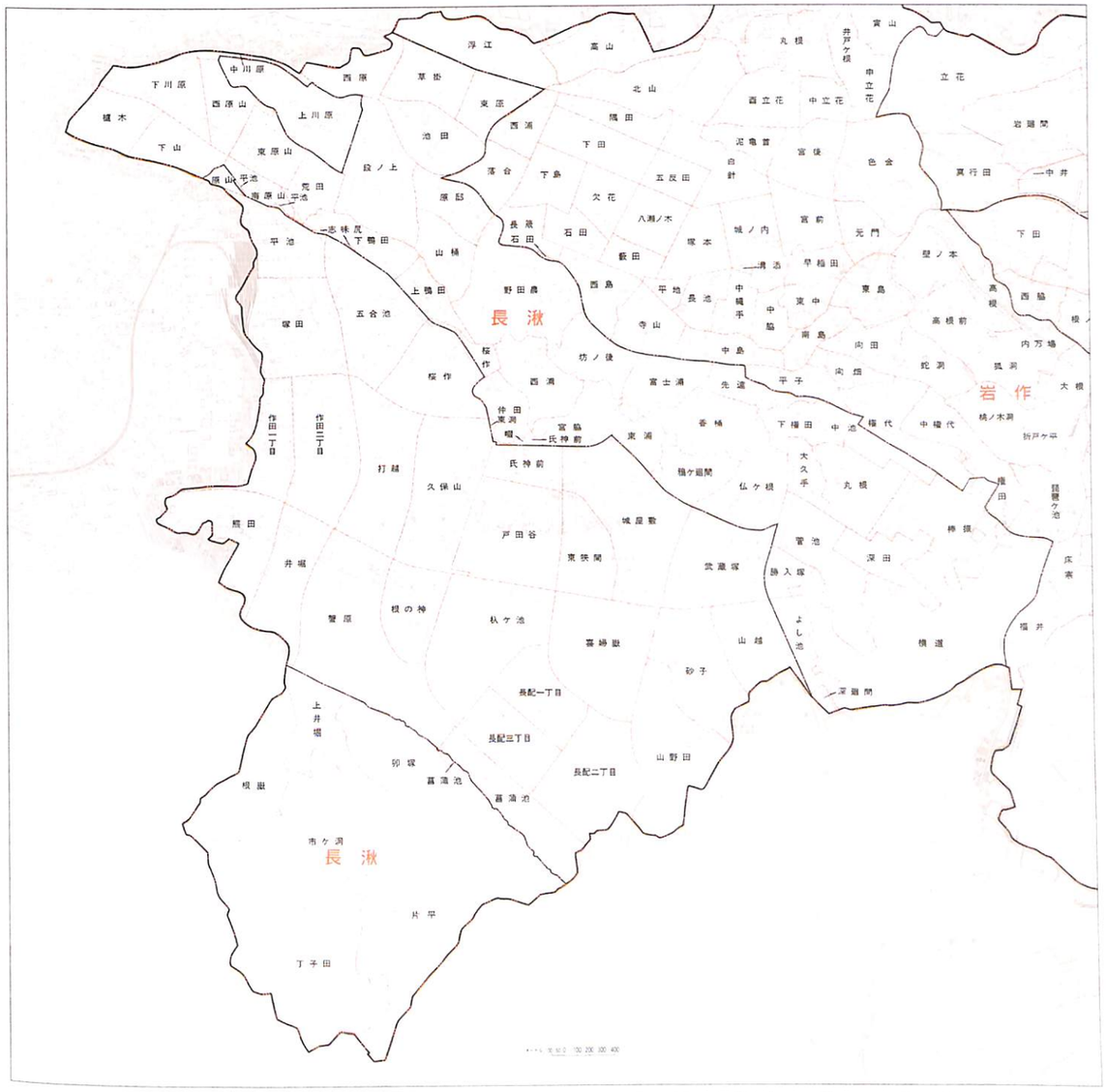
字名（あざな）の歴史～現在の長渋（ながくて）

長久手町では、昭和47年(1972)にグリーンロードが開通し、その後長渋地区では大規模な土地区画整理事業が行われ、かつての山林から住宅街へとまちのようすは大きく変っています。

土地区画整理事業の終了した地域では、新しい区画に合わせた、字界（あざかい）（字の区域を分ける境界）と字名（あざな）（新町名とも呼ばれています）が決定されます。この変更は、明治時代に行われた地租改正（ちそかいせい）以来の大規模な変更となっています。



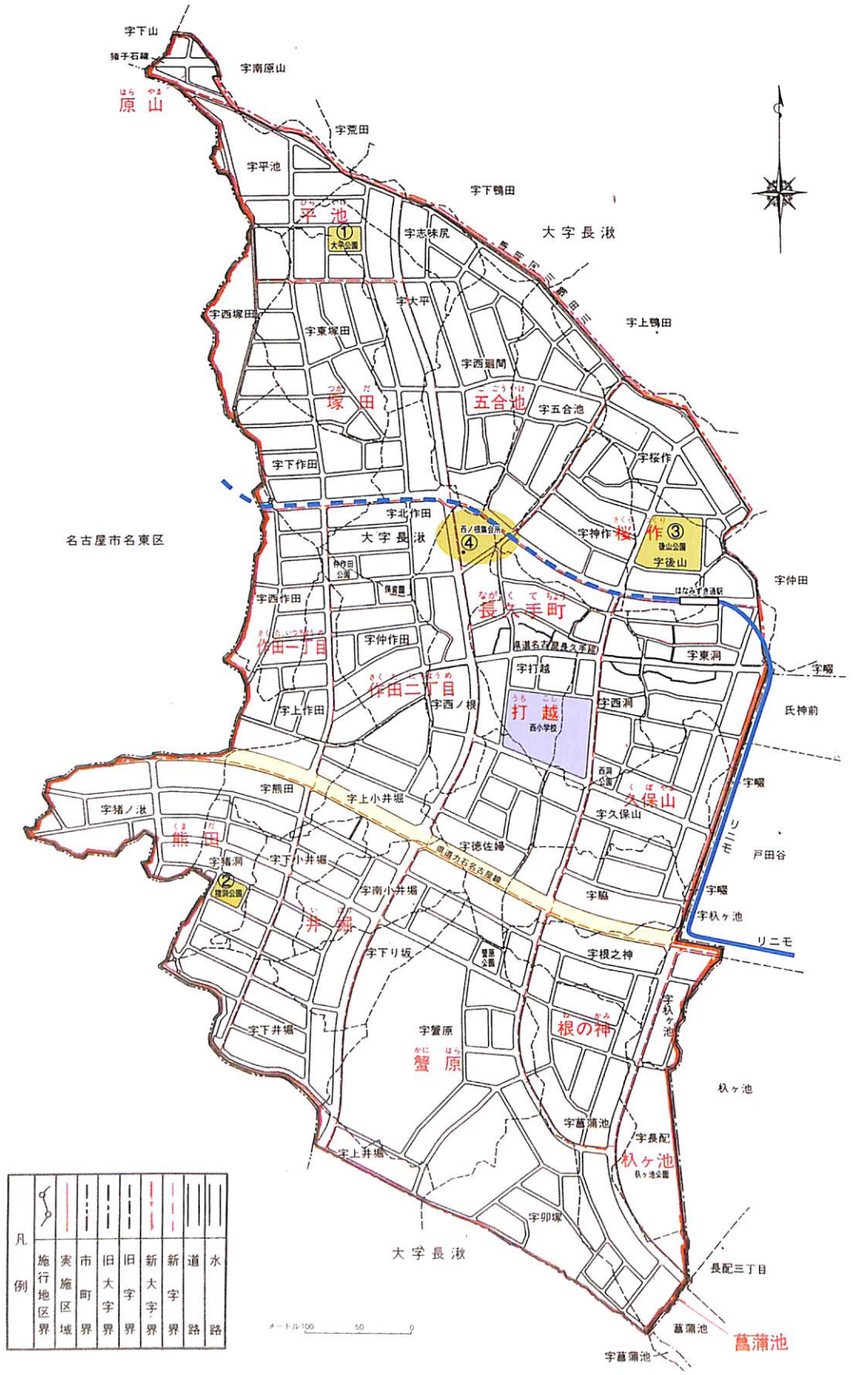
長久手町史資料編一「近世村絵図・地図集」村絵図の村・いまむかし　より　大字長渋現在図　に一部加工



長久手町字界図(部分)　平成11年長久手町作成　に一部加工

まちかどに残る地名

ここでは、現在の字名（新町名も含みます）ではありませんが、地域に今も残っている地名をいくつかとりあげました。



長久手町長湫西部土地区画整理事業新旧対照区域図　平成9年長久手町作成　に一部加工

① 大平（大平公園）

現在の長久手西通りの西側の鴨田川からグリーンロードの間は、北西から南東に伸びる尾根筋が入っています。この尾根筋は江戸時代には「大平根」や「塚田根」と呼ばれました。「根」は峰や尾根を意味します。

大平は、尾根筋の東斜面にありました。斜面の上部は山林（藩有林＝御林）、下部は畑でした。ヒラは斜面や傾斜地、山の中腹などを指します。字域の東境に沿って名古屋へ向かう道がありました。交通に便利な土地だったので、この字の開墾は古く、寛文４年(1664)の『愛知郡長久手村中田畑寄セ帳』にも記載されています。

平成９年(1997)の町名変更により、長久手西通りから東は「五合池」、北西部は「平池」、南西部は「塚田」になりました。

② 猪洞（猪洞公園）

猪洞は名東区にほど近い、グリーンロードの南側にありました。北が高く、南側が低くなっていました。西隣の猪ノ湫寄りに水の湧き出る場所があり、上社村（現在の名東区上社）の人々の築いた溜め池がありました。その上流の湧き水を使って長湫の人々が水田を開いたりしていたので、長久手村と上社村の境界は複雑に入り組んでいました。

平成９年(1997)の町名変更により、猪ノ湫などとともに、「熊田」になりました。

③ 後山（後山公園）

後山は長久手村の村寺として古くから親しまれてきた常照寺の西隣にあり、境内に接したあたりは寺の裏山となっていました。江戸時代の村絵図に「字後山定納山」とあり、『愛知郡長久手村中田畑寄セ帳』にも「うしろやま」と書かれています。字域は南側が高く、北側が低くなっており、南端は東西に尾根筋があり、北の方には池がありました。

平成９年(1997)の町名変更により、神作とともに大部分が「桜作」に、南端が「久保山」になりました。

④ 西ノ根（西ノ根集会所）

長久手口のバス停を中心として、南北に長く伸びる小字でした。長湫地区の大きな集落である「西洞」「東洞」が東側にあり、その西側の峰に位置しましたので、西ノ根（＝西の峰）と呼ばれました。

平成９年(1997)の町名変更により、東部は「打越」、西部は「作田二丁目」になりました。

大平公園

猪洞公園

後山公園

西ノ根集会所

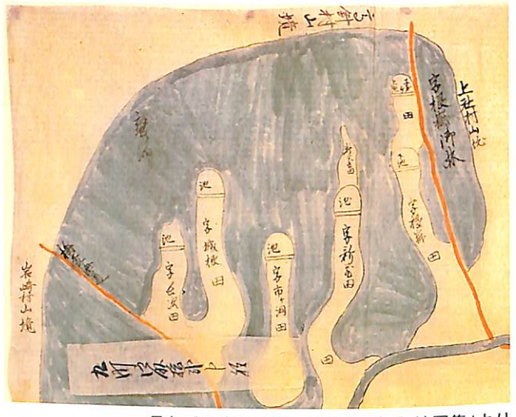
長久手町政番組『Weeklyながくて』
「ながくて歴史探訪 地名由来編」より

丁子田・市ヶ洞（平成19年11月放映）

丁子田は、江戸時代にはすでにあった水田で、開拓者の名前から「長次田」と呼ばれていたのが、明治時代になって佳字を使った「丁子田」となりました。丁子は南方の植物でクローブともいい、良いにおいがする香料で、スパイスとして肉料理などにも良く使われています。

市ヶ洞も江戸時代からある地名で、同じく水田でした。丁子田や市ヶ洞は西側が丘陵になっていて、南西から北東に向かう谷沿いに棚田が続き、これらの水田は北から新蔵田、市ヶ洞田、城根田、長次田と呼ばれていました。それぞれの棚田の先には溜め池がありました。

このふたつの字域にあった丁子田１号窯・市ヶ洞１号窯は、７世紀後半（飛鳥時代）の窖窯（山の斜面にトンネル状に掘って作られた半地下式の窯）で、古代の地名や人名を刻んだやきものが複数出土しています。これらの刻銘須恵器は、古代日本の都へ、税として納めるために作られたものと考えられます。都と古代長久手とのつながりを示す貴重なものです。



長久手町史資料編一「近世村絵図・地図集」より
愛知郡長久手村絵図（部分）〔原本：徳川林政史研究所所蔵〕

喜婦嶽（平成20年4月放映）

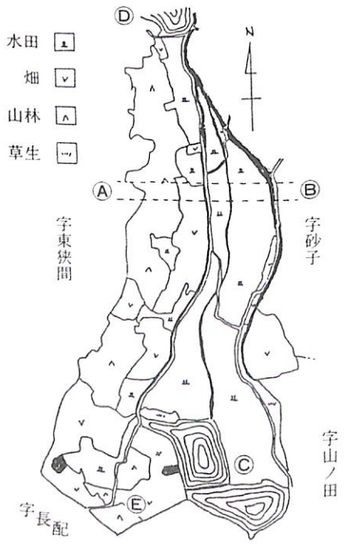
かつては南北に長い小字で、南に向かうほど地形が高くなり、南端の山の尾根からは杁ヶ池が良く見えました。尾根のすぐ北側にあったふたつの溜め池から、北側に谷がひらけていました。この池は江戸時代初めの『寛文村々覚書』にも「きぶらけ池」と記されています。

地名の由来ですが、「きびしい」「けわしい」という意味の「きぶい」からきたようです。「キブタケ」は「傾斜の急な山」のことでしょう。

字域の南端の通り沿いに大きな石地蔵がまつられています。長久手町は、大正から昭和の初めにかけて、亜炭の採掘で大変にぎわっていました。石地蔵は昭和７年(1932)５月５日、喜婦嶽の亜炭坑で起こった事故の遭難者を供養するために立てられたものです（現在は長配一丁目に位置します。）。

平成５年(1993)に現在の字域になりました。

昭和58年ごろの喜婦嶽地蔵
現在は住宅街の中にある。



明治９年「地租改生字限図」より
長久手の地名　より

あとがき

今回の特別展では、監修者として地元長久手町の郷土史家、小林　元氏のご尽力を賜りました。

また、小牧・長久手の戦いに関しましては、首都大学東京准教授谷口　央氏のご協力を得ました。古式銃・甲冑愛好家 野村忠志氏からも助言をいただきました。古文書・古地図等の展示資料に関しましては林　邦夫氏、長湫地区区有財産等管理運営委員会、愛知県公文書館、財団法人徳川黎明会、映像資料に関しましては株式会社ひまわりネットワークのご協力をいただいております。

本展を開催するにあたり、末筆ながら、お力添えくださった皆々様に深く感謝の意を表します。

【監修者】
小林　元

【図版提供】
小林　元　　愛知県公文書館　　財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所

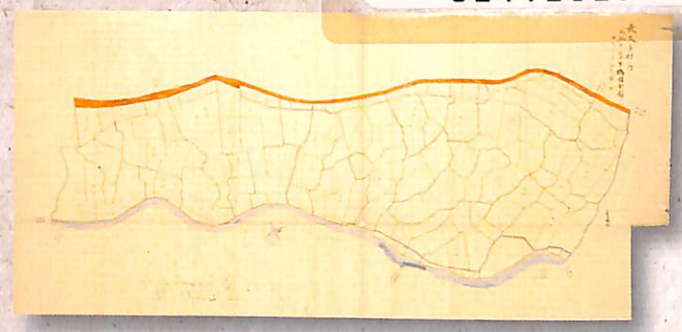
【参考文献一覧】
長久手町史編さん委員会　1997～2003『長久手町史』資料編１～８、本文編　長久手町
小林　元　2002『長久手の地名』総集編　長久手町
長久手町教育委員会　1995「長久手の湿地」郷土資料室特別展図録　長久手町教育委員会
長久手町教育委員会　2001「写真で見る長久手の変遷」郷土資料室特別展図録　長久手町教育委員会
長久手町教育委員会　2003「長久手の地名展－上郷編－」郷土資料室特別展図録　長久手町教育委員会
長久手町教育委員会　2005「長久手合戦／棒の手・オマント・警固祭り」郷土資料室特別展図録　長久手町教育委員会
長久手町教育委員会　2006「長久手誕生100年」郷土資料室特別展図録　長久手町教育委員会
長久手町教育委員会　2007「丁子田窯跡・市ヶ洞1号窯跡発掘調査報告～長久手から飛鳥へ～」
郷土資料室特別展図録　長久手町教育委員会

(財)瀬戸市文化振興財団　2007『愛知県長久手町　丁子田窯跡・市ヶ洞1号窯跡－長湫南部土地区画整理に係る発掘調査報告－』
瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告　第36集　長久手町教育委員会

【参考資料】
愛知県愛知郡長久手村全図　1962　長久手村
長久手町長湫西部土地区画整理事業新旧対照区域図　1997　長久手町
長久手町字界図　1999　長久手町
長久手町航空写真　2005　長久手町
長久手町全図　2006　長久手町
長久手町文化財マップ　2007　長久手町教育委員会
タウンガイドマップ長久手　2008　長久手町　　ほか

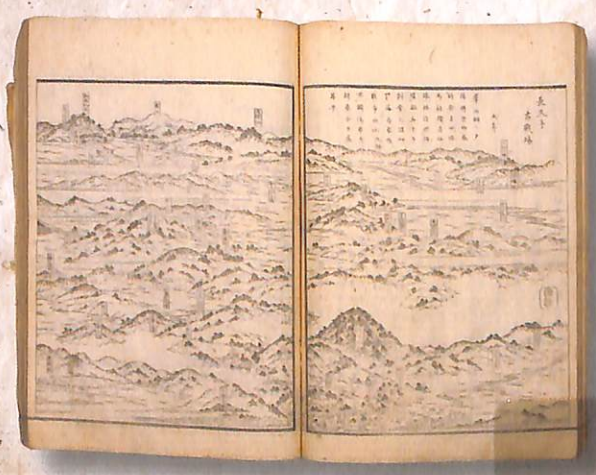
平成20年度 長久手町郷土資料室特別展
長久手の地名展 —長湫編—
編集・発行　長久手町教育委員会
愛知県愛知郡長久手町大字岩作字城の内60-1
TEL0561-63-1111　http://www.town.nagakute.aichi.jp
印刷　東洋地図株式会社

長久手町中央図書館
02412023



明治十八年一月　一村字分図　尾張國愛知郡長久手村(下鴨田)

明治九年　地租改正字限図　愛知郡長久手村(市ヶ洞)



尾張名所図絵 巻ノ五

この冊子は再生紙を使用しています。